

今週（5月31日から6月4日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週は、税揚げ日や国債の発行日などがあり、日銀当座預金残高は530兆円から520兆円程度へと減少していった。一方で、給付金や交付金等の影響もあり、地銀業態を中心に調達を控える先も見られた。

週の前半は、先週末に弱含んだ展開が継続し、レートを引き下げる動きとなった。31日は、月末要因で調達を控える先が見られたことで、調達側は地銀・証券業態を中心に▲0.05～▲0.008%、都銀・信託業態の調達レートは▲0.06～▲0.055%のスタートとなった。1日以降もギブン地合いは続き、調達側は▲0.065～▲0.01%、2日は▲0.07～▲0.015%のレンジで出合いが見られた。3日以降は運用サイドの減少もあり、レートは下げ止まった。4日は週末3日積みのレート上昇要因があるものの、地合いにさほど大きな変化はなく、調達レンジは▲0.055～▲0.015%で推移した。無担保コールO/N加重平均レートは概ね▲0.04～▲0.03%程度での推移となった。ターム物に関しては、調達サイドが慎重姿勢を見せたため、目立った出合いは見られなかった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.09～▲0.070%のレンジでの取引となった。出合いは投資家の資金調達が中心で、レートは安定して推移した。

SCは個別銘柄では2y414～2y424、5y142～146、10y349～362、20y172～176、30y66～70、40y13など、カレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は閑散なマーケットとなる中、GCレートが上昇傾向となっていることもあってか、3M物が▲0.108%近辺で推移し、先週比でやや軟調な展開となった。一方で6M物、1Y物はほぼ横ばい圏で推移した。

1日に実施された短国買入オペは、引き続き1Y物が買入対象外とされる中、前回と同額の5,000億円度でオファーされ、平均落札利回較差、按分落札利回較差ともに+0.003%と、やや甘い水準で決着した。応札倍率も4.6倍と前回の3倍を上回った。

4日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.102～▲0.101%での出合いが見られ、平均落札利回▲0.1018%、按分落札利回▲0.0982%と無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.105%出合いと、堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は特段のイベントは無く、週間償還総額1,000億円程度に対して、発行総額は3,500億円程度と発行超であった。一部の石油・鉄鋼業態において大型案件が実施されたものの、月の初旬ということもあって、発行案件数はあまり膨らまなかった。5月末の市場残高は約24.2兆円と前月対比で約6,000億円増加しており、4日時点では24兆円台後半と先週対比でも増加することが見込まれる。引き続き新型コロナオペの担保需要から投資家側による積極的な買いが見られており、プライマリーのレートは超低水準で推移している。例年であればこの時期になると期内物の買いが薄くなる傾向があるが、希少銘柄においては担保見合いから期内・期越えに関わらず極めて強い買いが観測されている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
5/31（月）	28,860.08	0.075	109.78	△ 0.034	△ 0.097	5,299,700
6/1（火）	28,814.34	0.075	109.40	△ 0.038	△ 0.092	5,251,000
6/2（水）	28,946.14	0.075	109.62	△ 0.043	△ 0.085	5,193,200
6/3（木）	29,058.11	0.080	109.61	△ 0.037	△ 0.085	5,205,000
6/4（金）	28,941.52	0.082	110.25	△ 0.034	△ 0.076	5,183,200

来週（6月7日から6月11日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/7 (月)	5月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 4月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)				4月の米消費者信用残高
6/8 (火)	1-3月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 4月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 4月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 4月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 5月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	30Y 9,000億円 6/9発行	交付税借入 11,000億円 6/18借入		4月の米貿易収支 1-3月期のユーロ圏GDP確報値
6/9 (水)	5月のマネーストック(日銀 8:50)	TB6M 34,000億円 6/10発行			4月の米卸売売上高
6/10 (木)	5月の企業物価指数(日銀 8:50)	流動性供給 5,000億円 6/11発行	エネルギー 対策借入 8,000億円 6/21借入		ECB定例理事会(金融政策発表) 5月の米財政収支 5月の米消費者物価指数
6/11 (金)	4-6月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50)	TB3M 60,000億円 6/14発行			6月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/7 (月)	700	0	700	CP買入 国債補完	▲ 100 100		0	700	TB3M発行▲63000償還64900
6/8 (火)	0	2,000	2,000	社債買入 新型コロナ支援			0	2,000	
6/9 (水)	1,000	▲ 13,000	▲ 12,000	全店共通	▲ 3,400		▲ 3,400	▲ 15,400	30Y発行▲9000
6/10 (木)	▲ 1,000	▲ 7,000	▲ 8,000	社債買入		1,300	1,300	▲ 6,700	TB6M発行▲34000償還25700
6/11 (金)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000	被災地支援	▲ 500		▲ 500	▲ 2,500	流動性供給▲5000 交付税借入▲11000期日11000
週 間 合 計	▲ 300	▲ 19,000	▲ 19,300	—	▲ 3,900	1,300	▲ 2,600	▲ 21,900	

6/7は日銀予想、6/8以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積みの終盤に入り、調達意欲が徐々に回復する事が予想され、その動向が注目される。また、9日には「2021年6月積み期間に適用する基準比率」が発表される予定となっている。新型コロナオペの金額次第ではあるが、16.5%程度（5月：17.5%）を予想する。レボ市場は、GCT/Nは、引き続き投資家の資金調達が継続するものの、キャッシュ潰しの資金運用の動きも入ることで、▲0.09～▲0.070%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、9日に6M物、11日に3M物の入札が実施予定。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、特段のイベントが無い中、期越え物の発行がどこまで膨らむか、動向が注目される。

主要なイベントは、国内では8日に1-3月期GDP2次速報、海外では8日に1-3月期のユーロ圏GDP確報値、10日にECB定例理事会、5月の米消費者物価指数等が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入